

除去土壌等の中間貯蔵施設とは？

中間貯蔵施設の概要

- 福島県内では、除染に伴い発生した放射性物質を含む土壌や廃棄物等が大量に発生。

※約1,600万～約2,200万m³と推計
(東京ドームの約13～18倍に相当)

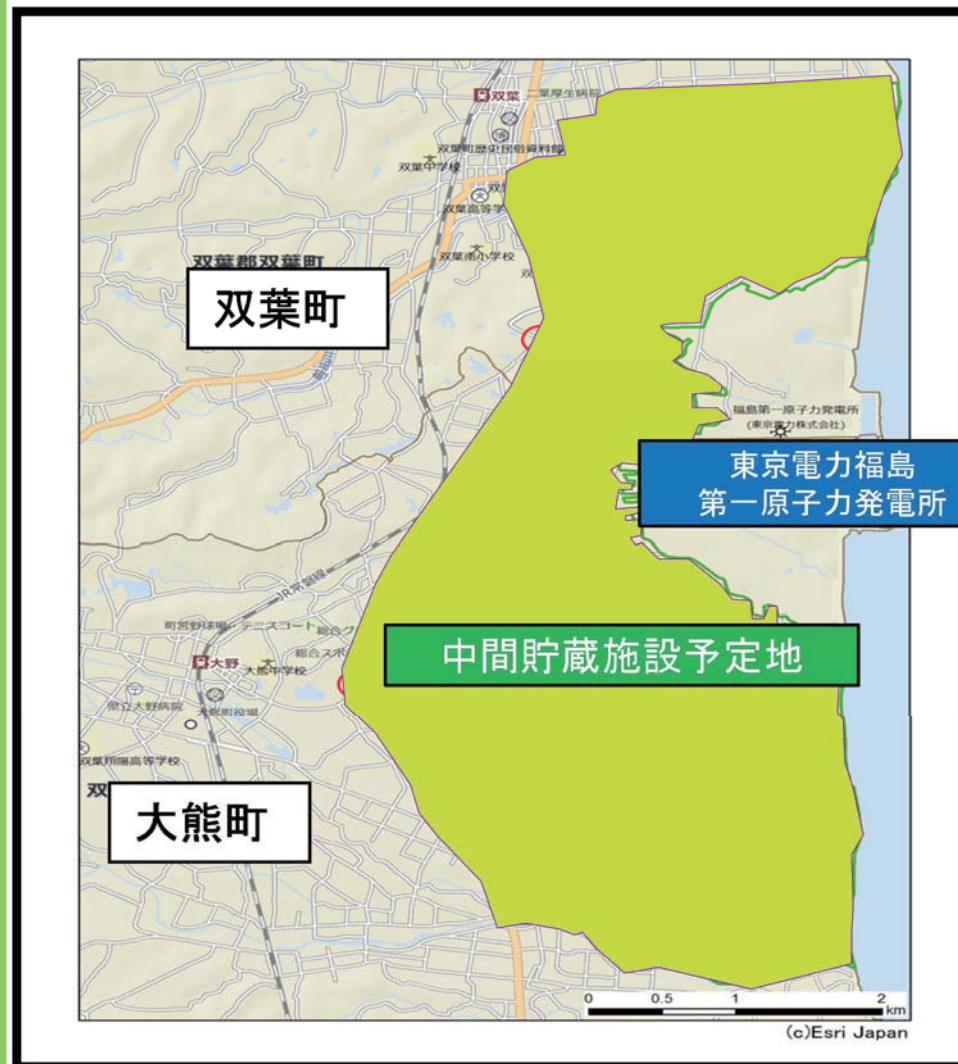
- 現時点で最終処分の方法を明らかにすることは困難。

- 最終処分するまでの間、安全かつ集中的に管理・保管するために中間貯蔵施設の整備が不可欠。

(面積:約16km²)

- 福島県内で発生した除染土壌や廃棄物、放射性セシウム濃度10万Bq/kgを超える焼却灰などを貯蔵
- 国は、「中間貯蔵開始後30年以内に、福島県外で最終処分を完了するために必要な措置を講ずる」旨を法律に規定(改正JESCO法:平成26年11月成立)

<中間貯蔵施設予定地>

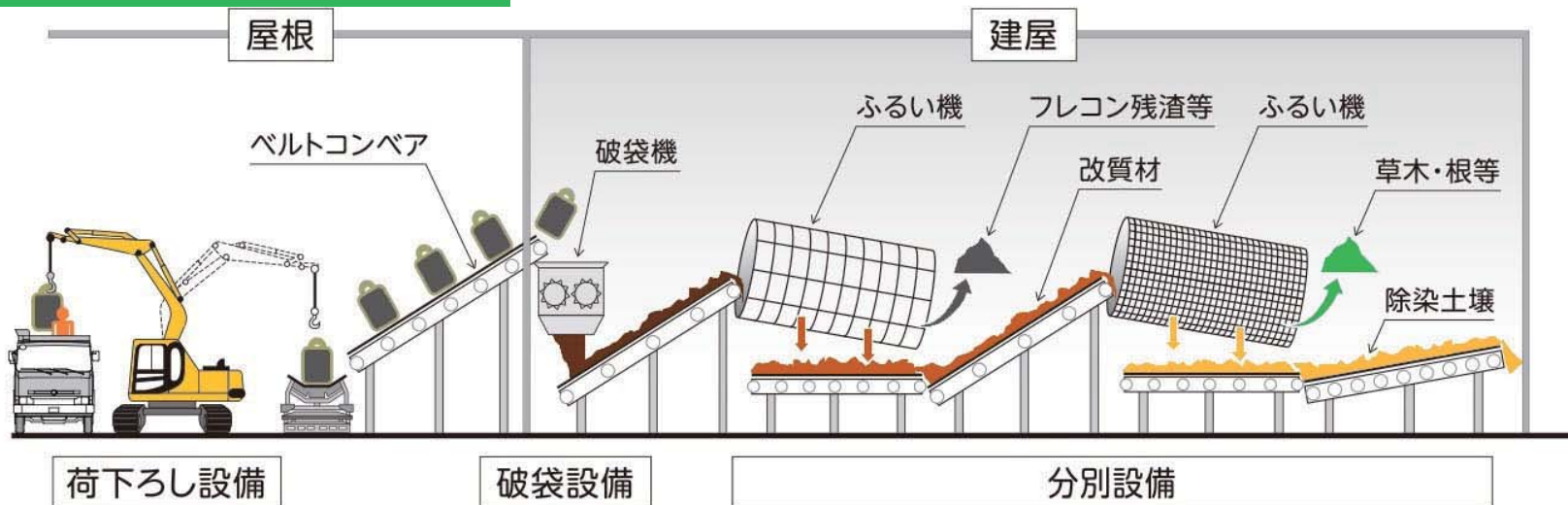


※図は平成29年1月末時点のものです。

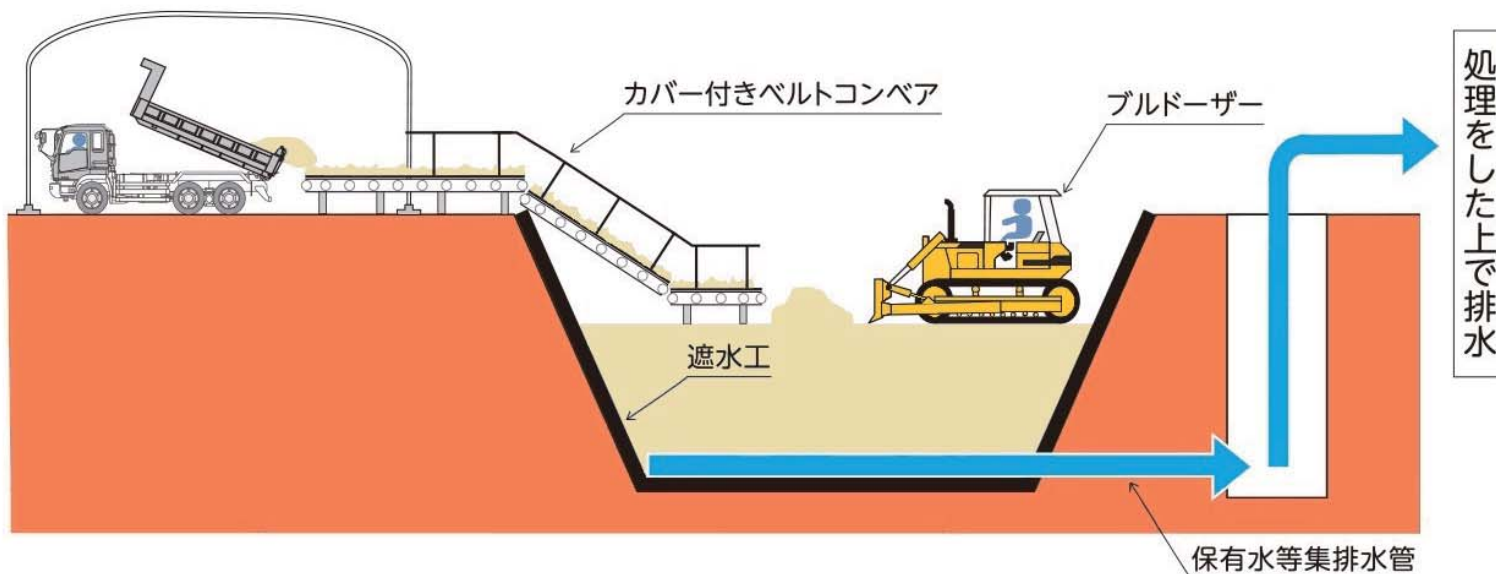
中間貯蔵施設

中間貯蔵施設のイメージ

受入・分別施設イメージ



土壌貯蔵施設イメージ



<主な安全対策>



輸送対象物と輸送車両の一元的な管理

除染土壤等の飛散流出防止対策



運転者と作業員の教育

輸送ルート上の道路交通対策
(注意喚起の看板等)

急カーブ注意
交通安全厳守
安全運転厳守



保管場におけるスクリーニング

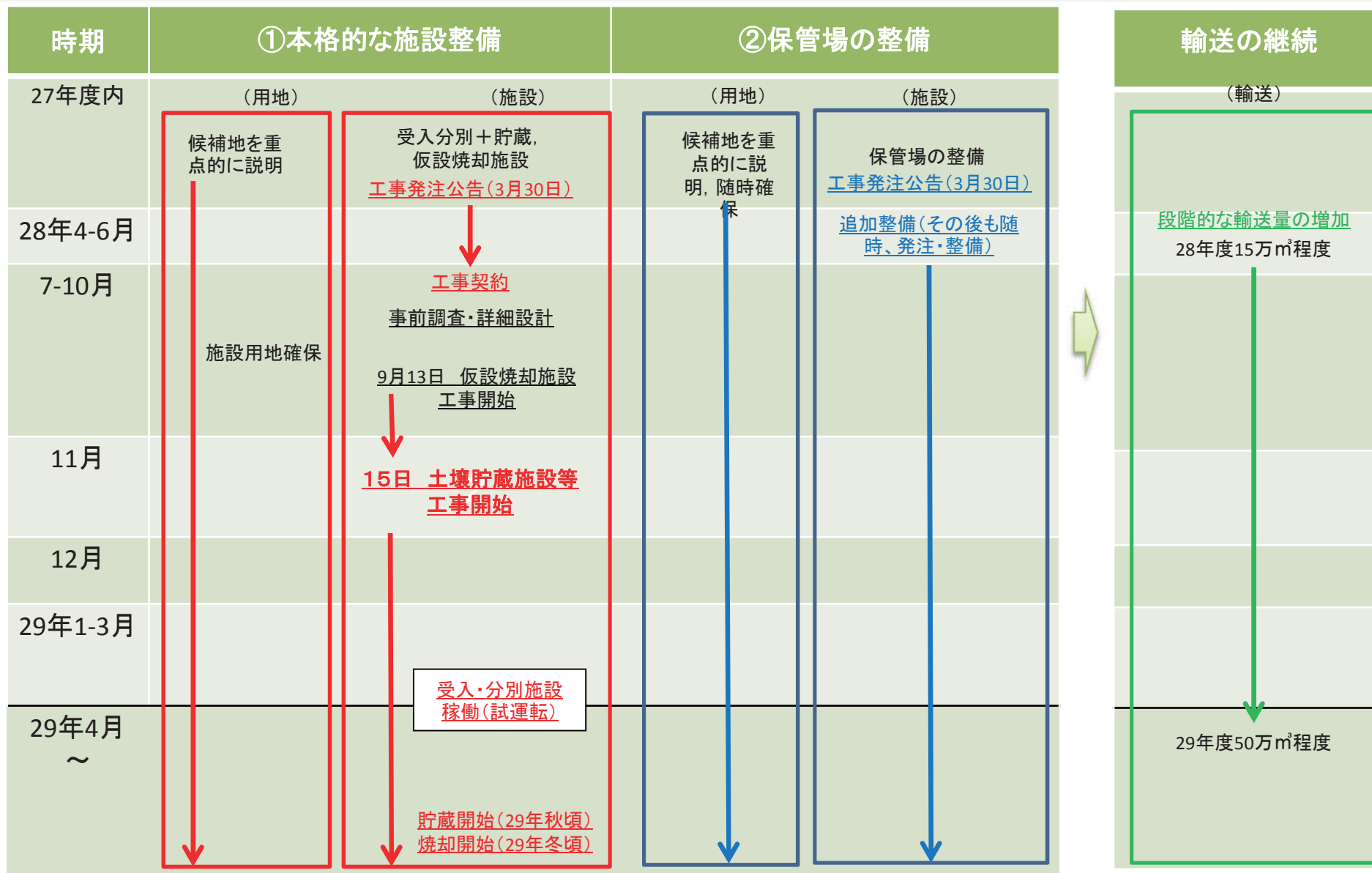
高速道路を利用する輸送車両は
専用の駐車マスで休憩



<輸送の様子>



中間貯蔵施設整備等の進め方について



※用地の取得状況に応じて、順次継続的に工事発注を行っていく。

中間貯蔵施設

中間貯蔵施設に係る「当面5年間の見通し」 (平成27年3月27日環境省公表)

